

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立千秋小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒491-0804

一宮市千秋町佐野字北浦136番地

E-mail tiaki-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~tiaki-e/

幼児児童生徒数 男子 213名 女子 208名 合計 421名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「健康で、自ら学ぶ、心豊かな千秋っ子の育成」を学校理念として、ESDの実践を通して地域を愛し、地域にすすんで働きかける子の力の育成を目標とした。

具体的には、花いっぱい・友だちいっぱい・夢いっぱいを柱に、①地域の文化についての学習、②地域の方と触れ合う活動、③地域に働きかける活動、④地域に情報を発信する活動を行った。

① 地域の文化についての学習

地域には千秋音頭という踊りが残っている。夏に開催されている盆踊りや運動会で毎年、親子と一緒に千秋音頭を踊っている。毎年、全校児童が、地域の保存会の方に踊り方を教えていただき、保存会の方たちとも楽しく関わりながら、受け継がれている。運動会では、保存会の方から教えていただいたことを子どもが保護者に伝え、親子一緒に千秋音頭を踊った。毎年の積み重ねで、年々うまく踊れるようになった。

②地域の方と触れ合う活動

本校のクラブ活動の多くは、地域の方がゲストティーチャーとして来校し、指導して下さる。4年生、5年生、6年生の児童が希望したクラブに参加している。地域の方と関わるクラブには、次のようなものがあった。

バドミントン・テニス・グラウンドゴルフ・ゲートボール
英語・手話・囲碁・お茶・お花

地域の方から、日本の伝統文化を学んだりスポーツや趣味につながる活動を教えていただいたり、視野を広げ将来の活躍の場を見つけるのに役立つものがある。普段、体験することができないことにも挑戦することができ、児童が生き生きとしている姿がたくさん見られた。

③地域に働きかける活動

年に3回、早朝から各町内でPTAの方々による資源回収を行った。4年生は、総合的な学習の時間の環境学習の一環として、資源の分別の手伝いをした。資源回収で分かったことや困ったことなどを話し合い、よりよい資源の生かし方について考えることができた。保護者や地域の方と話したり、働いたりしながら、資源を分別することの大切さを学んだ。

④地域に情報を発信する活動

学校の活動の様子をホームページや「夢がキラキラ」と題した学校新聞で伝えた。ホームページでは、日々学年ごとで授業の様子などが更新され、大きい行事のときには、在籍人数を超える閲覧数となった。学校新聞「夢がキラキラ」は、毎年、年間50部ほどを発行している。地域の方にも配布をし、情報を発信し続けている。長く続けているので、保護者や地域の方にとっては、なくてはならない存在となっている。



① の写真 (千秋音頭)



② の写真 (クラブ活動)



③ の写真 (資源回収)



④ の写真 (学校ホームページ)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域の産業・人とのつながり)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

持続発展教育（ESD）として、環境教育、国際理解教育、人権教育等持続可能な発展に関わる様々な分野を多様な方法を用いてつなげ、総合的に取り組んでいる。主に、各学年の総合的な学習に時間を利用し、活動している。「花いっぱい、友だちいっぱい、夢いっぱい」のテーマに沿って、各学年の取り組みを定着させながら、問題を解決する資質や能力を育てている。3年生では地域、4年生は環境、5年生はNIE、6年生は国際理解と各学年で領域を分け、それぞれ活動を行っている。毎年よりよい方法を次年度の教員に伝え、学年に見合った内容であるか確認し、実施内容を精選して取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度末には、各学年の教員同士で引継ぎが行われ、活動内容を伝え、その際の成果や課題を伝え、さらによりよい活動となるように話し合いが行われている。また、学校全体に関わる大きな行事では、教員間で振り返り、次年度に生かせるように改善策などを検討している。また、様々な活動に力を貸してくださる地域の方へのお礼をするため、児童らの感謝の気持ちを込めた手紙を届け、学校と地域の絆を深めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

1月上旬に学校評価アンケートを行い、教職員・児童・地域にアンケートを実施した。地域住民のアンケートの結果から、一つずつの学校行事等への満足度は高まっているが、一方で地域の行事で子どもたちとふれあいが減ってきていることが分かった。また、児童らは地域の歴史や自然に関心があるかという質問に関心があると答えた児童が7月から12月でわずかに増え、活動したことによって、わずかに関心をもつようになったと考えられる。しかし教職員のアンケートでは、ESD活動に進んで取り組んでいるとは言えない状況である。原因の一つに、時間の確保の問題点がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校の活動の様子をホームページや「夢がキラキラ」と題した学校広報誌で伝えた。ホームページは、毎日更新され、たくさんの保護者や地域の方が閲覧し、学校の様子を知ってもらった。学校新聞「夢がキラキラ」は、毎年、年間50部ほどを発行しており、活動の中で学んだことや子どもたちの生き生きとした様子が分かるように写真と共に載せ、学校行事を伝えることで保護者や地域住民の方から学校教育について理解していただけた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

年に数回、早朝から各町内でPTAの方々と町内会の人たちの協力による資源回収を行った。4年生は、総合的な学習の時間の環境学習の一環として、資源の分別の手伝いをした。資源回収で分かったことや困ったことなどを話し合い、よりよい資源の生かし方について考えることができた。また保護者や地域の方と話したり、働いたりしながら、資源を分別することの大切さを学ぶことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特になし。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

特になし。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度はユネスコス쿨の活動に参加しないため、計画せず。